

バドミントン・関東学生<女子>

シングルス 川村、ダブルス 木村・梨木 3位

関東学生バドミントン選手権が6月5日から29日まで、立川市柴崎体育館で行われ、女子シングルスで川村益美(経営3・前沢高)が、ダブルスで、木村綾(経営1・金沢向陽高)・梨木春花(商1・金沢向陽高)ペアがそれぞれ3位に入賞した。

木村・梨木ペアは3回戦で第1シードの宇都・小森ペア(日体大)を15-8、15-10で破り、上位進出を果たした。

成瀬誠監督は「ダブルスの木村と梨木は、1年次生でこの成績はすばらしい。今後も期待したい。またシングルスで健闘した川村もほめてあげたい。」と語った。(大野 愛子・経済3)

【ニュース専修2004年7月号15面】

バレーボール・東日本大学選手権<男子>

ベスト8進出

バレーボールの東日本大学選手権が7月1日から4日、東京体育館ほかで行われ、専大はベスト8進出と健闘した。

全70校がトーナメントで競った今大会。等々力広人(経済3・岡谷工高)らセンター陣がチームを引っ張り、1、2回戦はストレート勝ち。3回戦でも東北大学リーグ1位の東北福祉大に3―1で快勝したが、準々決勝で今春の関東大学リーグを無敗で制した筑波大に1―3で敗れた。

吉岡達仁監督は「選手達は「勝つ」という強い気持ちを持って戦い、良い結果を残した。サーブ、サーブレシーブと言った課題を夏合宿で克服し、秋季リーグでは優勝を目指します」と語った。

【ニュース専修2004年7月号15面】

OB佐々木太一さん本学でバレーボール指導



▲「考えて練習しよう！」—高校生に指導する佐々木太一さん

地下3階体育室に会場を移してのオンコートレクチャーは、同チームのテクニカルコーチでVリーグ5連覇に貢献している佐々木太一氏(平5商)が、移動攻撃や空中でのフェイク動作を中心に「クイックの入り方」を高校生たちに実技指導した。

7月3日、神田キャンパスでバレーボール学会(会長=朽堀申二筑波大学名誉教授)の2004研究集会が開かれた。

Vリーグ5連覇を達成したサントリーサンパーズのゼネラルマネージャー・鳥羽賢二氏が「飽くなき覇権への挑戦」と題して講演し、進化する「組織」を形成するために必要なことや、選手が自ら考え判断する=「考働」の実践について解説。スポーツが社会に及ぼす影響についても言及した。

【ニュース専修2004年7月号15面】

バスケットボール・関東大学新人戦<男子>

今後の成長に期待



▲リーグ戦の戦力として期待される松本怜

第44回関東大学バスケットボール新人戦が6月14日から20日まで、代々木第2体育館で行われ、専大は8位に終わった。昨年3位の専大はシードで2回戦から出場。順天大、神大を下し、準々決勝に進出したが、日体大に敗れ、5～8位決定戦へ。ここでも本来の実力を発揮出来ず、早大、拓大に連敗した。今大会の指揮をとった新関光一総括は「まだまだ気持ちが弱い。戦う姿勢になっていなかった」と反省点を挙げた。リーグ戦連覇には1、2年次生の活躍が不可欠。この夏での成長に期待したい。(松本 旬平・経済2)

【ニュース専修2004年7月号15面】

人-Zoom UP

バスケットボール部 中川 和之(経済4)



02年の全日本学生選手権(インカレ)優勝以来、03年の関東大学リーグ戦、今年5月の関東大学選手権(カンカレ)と、大学バスケットボールの全タイトルを獲得した専大。そのすべての試合に出場し、ポイントガード(PG)としてチームを牽引してきたのが中川和之だ。試合前のアップでは華麗なドリブルワークやボールハンドリングで観客を魅了。注目されるほどに実力を発揮し、試合では最高のプレーを披露、関東大学選手権ではMVPにも選ばれた。

彼の原点はバスケットが好きであるということ。好きだからこそ「誰にも負けたくない」という気持ちが強く、練習でも負けるようなことはなかった。小3からバスケットを始め、中学、高校、大学と環境が変わるたびに努力し、対応していける能力を身につけてきた。「最大の

ライバルは己である」と言うように、自分のプレーをどこまで高められるかを常に意識し、自分自身を貪欲に磨き続けてきたからこそ、自分らしさを強く表現することが出来る。

大学バスケット界を代表するゲームメーカーとして国際試合にも出場。日本学生選抜のPGとして個性の強いメンバーをリードし、存在感を発揮している。

今年の抱負は「全戦全勝」。昨年の全日本学生選手権では拓大に敗れ、7位と苦渋を味わった。その経験をバネに、大学3冠を狙う。チームは多くの日本学生選抜選手を抱え、来年1月の全日本総合選手権で社会人チームとも渡り合えるポテンシャルを秘めている。

相手ディフェンスを切り崩すドリブル、チームのピンチを救う3ポイントシュート、勢いを与えるアリウープパス。チームの浮沈の鍵を握る彼の活躍に注目したい。

そして将来、ナショナルチームをも引っ張る存在へと成長を遂げてもらいたい。(松本 旬平・経済1)

【ニュース専修2004年7月号15面】

アーチェリー部 創部40周年を祝う



アーチェリー部の創部40周年記念式典・祝賀会が、7月3日、神田キャンパスで開かれた。OB・OG、現役学生、大学関係者、体育会各部役員など約150人が出席し、旧交を温めながら、50周年に向けて更なる部の発展を誓った。

40周年記念誌には、アテネ五輪日本代表の山本博氏(大宮開成高校教諭)の特別寄稿も掲載されている。

【ニュース専修2004年7月号15面】